

# 多高通信

第16号 平成30年12月26日発行



さどく ゆたかに たくましく  
宮城県多賀城高等学校

## 2学年

### 修学旅行に行ってきました!

11月27日から3泊4日、2学年が関西方面へ修学旅行に行ってきました。

■修学旅行実行委員長 菊地 祐吾

(2年7組 多賀城二中出身)

高校生活の中で最も大きな行事ともいえる修学旅行が終わりました。私もとても楽しみにしていた行事でもあり、4日間があつという間に過ぎました。京都での寺社仏閣の見学では、歴史を肌で感じる建物や風景をたくさん見ることができました。写真で見るとは違う感動がたくさんあり、クラスの友人と一緒にその建物や風景を見ることができたのはとても貴重な体験でした。

クラス別研修では、人と防災未来センターで阪神淡路大震災の被害状況やどのようなことが起こったのかなどを実際に現場にいた方にお話を聞かせていただき自分たちが普段から勉強している災害についてさらに知識を広げ、深めることができました。

研修のあとはユニバーサルスタジオ・ジャパンに行きました。ここでは学校のこ



となどを忘れて全力で楽しむことができ、とても良い思い出を作ることができました。

三日目の自主研修では、初日に行くことのできなかった京都のお寺や観光スポットを巡りました。自主研修は前々から計画を自分たちで立てており、京都で有名な食べ物を、歴史ある町並みを歩きながら食べたりし、文化を感じることができました。

この4日間はとても濃いもので、たくさんのお話を学び、感じることができました。これからは受験に切り替え、より一層学習に励んでいきたいと思えます。

### 吹奏楽部コンテスト報告

#### マーチングコンテスト東北大会金賞!

■副部長 小林 桜子(2年3組 多賀城二中出身)

私達は10月28日にカメイアリーナ仙台で行われた、第31回全日本マーチングコンテスト東北大会に出場させていただきました。指導して下さった先生方、応援して下さった先輩、保護者の方々などたくさんの方々に支えていただき、東北大会金賞を受賞することができました。本当にありがとございました!

3年生が引退し、新体制になって初めての大会で、ほとんどの部員がマーチング初心者ということもあり、大会までにたくさん高い壁がありました。しかし、部員でアイデアを出し合い全員で乗り越えることができました。自主的な活動により部員がマーチングの楽しさや一体感のある演奏演技に感動できたことが本当に良かったです。また、練習の過程で、マーチングは一人一人に動きがあり、それを他の人と合わせるから、一人一人の大切さを改めて実感し、部員は誰も欠けてはならず、多賀城高校で吹奏楽部として活動していることを幸せに思いました。

このマーチングコンテストでは反省点があります。それらをこれからどのように活かしていくのが重要だと思えます。応援して下さった方々に感謝し、多賀城高校吹奏楽部らしい、明るくみなさんの心を掴めるような演奏を目指し頑張ります!これからも温かいご声援よろしくお願ひします!

#### ソロコンテスト全国大会

#### クラリネット金賞・トランペット銅賞!

■佐々木 碧美(3年2組 多賀城中出身)

3年間吹奏楽部に所属して、ソロのコンクールに何回か出場したことがありました。全国大会に出場させていた



まったときは、全国という大きな舞台で演奏できることがとても楽しみで、今まで頑張ってきた良かったと素直に喜びました。しかし、日にちが近づいてくと、東北を出て全国大会に出場するということは、周りのレベルも高いと感じ、今までの経験を活かして練習に励みました。

当日は予想していた通り、出演者の方々の演奏技術が高く、いろいろな表現で音楽を伝えていること、楽譜に忠実に演奏しているながらも自分の個性を出す演奏をしていることなど、演奏からいろいろなメッセージを発信しているように感じ、一曲の中からたくさんイメージを受け取ることができた感覚でした。



本番は、これまでの練習の成果とその過程で工夫したことが発揮できて、一番楽しくそして楽曲の特徴を一つの音楽として表現することができて金賞を受賞することができました。応援していただいた方々には、本当に感謝しております。この経験を自信に繋げ、今後の音楽活動に活かして行きたいと考えています。

### ユネスコスクール東北大会

11月16日、宮城教育大学にて、第7回ユネスコスクール大会東北大会、第8回ユネスコスクール大会宮城県大会が開催され、1年生の生徒3名が参加しました。



東北地方ESD活動支援センターの紹介、新学習指導要領の方向とESDの接点について講話していただき、その後、各校のESDの活動についてポスターセッションを行いました。本校での防災・減災に関する諸活動について発表を行いました。参加者との交流を深めました。

■箭子 優羽(1年4組 高砂中出身)

今回参加したユネスコスクール・東北大会には、小学生から高校生まで幅広い年齢の方々がそれぞれのテーマで発表を行い、多くの発表を聞いて視野が広がったうえ、その発表も「これからの社会」について深く考え行動したものがまとめられており、強く興味を持つことができました。私たちの発表の後、以前に津波波高標識を設置していた方とお話できました。前の世代から私たちに受け継がれているという実感が強くわき、とても嬉しかったし感動を覚えました。

その後、米沢興譲館高校の皆さんとESDについて話し合いを行いました。意見交換の中で、私たちはもともと地域とのつながりを強くしなければと感じました。また、この話し合いは最初にテーマを絞らなかつたので、議論を深めることができなかつたという反省があります。この経験も次の機会に活かしていきたいと思えます。

### ソーシャルビジネススマイディアプレゼンテーション(SBP)

11月17日、品川女子学院において、第8回ソーシャルビジネススマイディアプレゼンテーションが開催され、本校生徒1年生5名が参加しました。音楽家の小林武史氏による基調講演のあと、ポスターセッションを行いました。沢山の聴衆を前にして、堂々と発表することができました。その後、参加高校生による、プレゼンテーションを参観しました。発表の内容が大変高度で、秀逸なものばかりだったため、本校生徒も大きな刺激を受けて帰ってきました。

■生徒の感想

今回、Social Business Presentation に参加して感じたことは、どの学校のプレゼンテーションも素晴らしいものだと思います。特に中学生が発表していたアイデアは、自分では想像もできないようなものがたくさんあり、とても驚きました。

品川女子学院の生徒の発表では、普段身近ではない孤独死について、障害を持つ人でも楽しむことのできる旅行、外国人とのつながりを持ち生活を豊かにしたい、など、様々なテーマがあり、全て中学生や同年代の高校生が考えたものであることが、何よりもすごいことだと感じました。また、聖光学院高等学校の生徒は、今後実現可能なアイデアでこちら側にも考えさせるようなものがあり、被災者支援やFace Passなど、特に被災地支援では自分たちもボランティアをやるチャンスはあるので、そこで生かしていけるような思いを抱き、とても参事になりました。

今回のプレゼンテーションは、私にとつて大きな刺激となりました。これから、自分たちもプレゼンをする機会が様々な場面であるので、そこに生かしていきたいと思えます。



# 弓道部 東北選抜大会出場!



県新人大会で弓道部が男子団体第2位、女子個人第3位の成績を収めました。これにより、11月24日・25日の2日間、弘前市で行われた東北選抜大会に出場し、見事男子団体第3位、女子個人第2位に輝きました!

■林田 亜海

(2年4組 高崎中出身)

私は東北大会で個人女子第2位という成績を収めることができました。練習では、大会の前日までの練習が伸び悩み、友人からアドバイスをもらったり、先生から指導頂いたりして努力を重ねてきました。私は緊張すると雑念が入ってしまう、自分に集中できなくなることがこれまでの課題でした。大会当日は自分の技術面よりもメンタル面を意識し、常に自分が試合をしているイメージを持ち、周りの空気に流されず、自分のことだけに集中するよう心掛けました。そのおかげで、道場に入ったときには、自分に自信をもつことができ、課題を克服することができました。

弓道は、いかに自分が中てた時と同じような射を次も再現できるかが重要だと思っており、今回の大会ではそれができていたのだと思います。結果は2位で悔しい結果でした。私は、誰もが納得する完璧な射ができていないとまだまだ言えません。自分の理想とする射ができるよう、日々精進したいと思っています。

# インドネシア Zoom 文化交流

12月4日、国際協働型プロジェクト学習の始動企画として、本校災害科学科の2年生とインドネシアにあるサンタローレンシア校とで、Zoom(モニター)を利用したアプリを用いた文化交流授業を行いました。回線の関係でコミュニケーションが上手くとれないと



インドネシアの様子は壁面のスクリーンに投影しました

ころもありましたが、Zoomでミラーリングをしたり画像を提示したりすることで乗り越えることができました。

■生徒の感想

〇聞こえづらいところもありましたが、インドネシアの人たちの英語の能力の高さに驚きました。自分たちももっと頑張らなさいと感じました。自分たちも〇こちら側の映像や音声がちやんと伝わっているな、と感じました。私たちの発表に笑ってくれたり手を振ってくれたり嬉しかったです。

# 海上保安本部旅客船救助訓練

12月4日、海上保安本部の救助訓練に1学年災害科学科の生徒が要救助者役として参加してきました。今回の訓練は、船内で殺傷事件が発生し、多数の負傷者が出たという想定のもと、実際の旅客船「フェリーきたかみ」内で実施されました。

■西塚 大翔(1年7組 高砂中出身)

私は犯人からの逃避行動中に腹部を建造物に強打したという設定で参加しました。初めての体験でも緊張しましたが、しっかりとやり遂げることができました。いづくでどんな事件が起こるか分かりませんが、万が一に備える行動と心構えの大切さを改めて実感しました。この訓練は一つでも多くの命を救うための大切な訓練です。今回の私たちの参加で、今後の海上保安本部の皆さんの力に少しでもなることができたかと思いました。私にとっても、こんな機会はないと思うので、今後の糧にしていきたいと思っています。



# 社会科 シチズンシップ教育

# 選挙制度講座

12月13日、シチズンシップ教育の一環として、2年生を対象に「選挙制度に関する講座」を開催しました。今回は、東北大学大学院情報科学研究科准

教授の河村和徳先生に本校にいらしていただき、政治に参加することの重要性について、アニメやロールプレイングゲームなどを例に挙げながら、具体的に大変わ

かりやすく説明していただきました。その後、宮城県選挙管理委員会事務局の吉野輝信先生から、投票の仕方や選挙運動における注意事項等について説明していただき、選挙権年齢が18歳に引き下げられて来年には選挙権を持つことになる現2年生にとって、政治や選挙に対する意識も一層高まりました。

■生徒の感想

〇今回の講義は、選挙のことだけではなく、世の中の仕組みについてもお話していただきました。私は、選挙に行ってみたいなと思います。先進国の日本で生活できているから、選挙・政治はどうでもよいと思う人もいるかもしれないですが、とりえず行ってみようと思う人が多

大事だと分かりました。これからは、世の中のことを考えながら生活していきたいです。(2年男子)



吉野先生の講話

〇私も来年から選挙権が得られて選挙に参加できますが、今の私では政治のことが何も分からず、どう選挙に参加したら良いか不安でしかありませんでした。そんな中で、このような講座を聞いて、さまざまな例も考えながら、政治を理解できて安心しました。政治は、自分の将来に大きく関わっていくことが分かったので、さらに政治のことについて学ばなければならぬと思います。(2年女子)

# くらしと安全A 特別授業

# 保健・医療活動と災害

12月14日、2学年のくらしと安全Aの授業の一環として、東北大学病院より看護師の後藤えり子さんを講師としてお招きし、災害時の医療活動についての特別授業を実施しました。後藤さんは災害時



河村先生の講話



に厚生労働省から派遣される緊急医療チーム「DMAT」の資格を持つており、実体験などをもとにした臨場感ある講話を頂くことができました。

■田中 彩華

(2年6組 利府中出身)

私も興味深い話でした。以前の課題研究の時に災害時の医療について調べたことがあり、DMATの存在は知っていましたが、国内だけでなく海外への派遣も行われているなど、まだまだ知らないことがたくさんあり、理解を深めることができました。医療分野への関心が高まっています。湧く話を聞くことができました。ありがとうございます。

# 災害科学科 社会と災害 特別授業 Eco-DRR

12月15日、1学年災害科学科の社会と災害の授業の一環として、国際航業株式会社より鈴木木雅人さんを講師としてお招きし、「Eco-DRR (Ecosystem-based Disaster Risk Reduction)」について



の特別授業を実施しました。Eco-DRRとは、環境省や国交省が提唱する、生態系と防災を融合させた考え方で、今回の授業ではEco-DRRとは何かを知り、その考えをもとに、自然の力を使った防災・減災にはどのようなものがあるかを生徒とともに考えていく内容となりました。

■大堀 楓河(1年7組 塩竈一中出身)

自然の力を使って防災に取り組むというアイデアは大変新鮮で驚いたのと同時に、これからの時代に必要になると思うので、今回学んだことを今後活用できるように覚えておきたいと思っています。

また、授業後半のグループ活動では、実際にEco-DRRの視点から多賀城市の防災について具体的な案や改善策などを提案することができ、とても有意義な時間となりました。